

平成 27 年 12 月 7 日

報道関係者各位

テクマトリックス株式会社

## テクマトリックス(株)が API のテスト自動化ツール「Parasoft SOAtest® 9.9」とサービス仮想化プラットフォームを提供する「Parasoft Virtualize 9.9」の販売を開始

テクマトリックス株式会社(本社：東京都港区、代表取締役社長：由利孝)は、米国 Parasoft Corporation (本社：米国カリフォルニア州、最高経営責任者：Elizabeth Kolawa)が開発した API テスト自動化ツール「Parasoft SOAtest® 9.9(以降、SOAtest 9.9 と記す)」およびサービス仮想化ツール「Parasoft Virtualize 9.9(以降、Virtualize 9.9 と記す)」の販売を平成 27 年 12 月 7 日より開始します。テクマトリックス株式会社は、SOAtest / Virtualize 9.9 の総販売代理店として日本国内での販売、マーケティング、日本語化、ユーザーサポート、ソリューションサービス提供などの活動を展開してまいります。

IoT を含む近年の IT システムは、モノやシステム間連携が必須となったことによって、ますます複雑化しています。これらの連携における効率的なテスト手法の確立がこれまで以上に重要であると言えるでしょう。このたびリリースいたしました「SOAtest 9.9」は、機能間の連携で用いられる API(主に Web API や SOAP、MQ、JMS などの Web サービス)を提供する側の開発において、テストドライバーを提供し、早い段階からのテストとテストの自動化を実現する環境を提供します。また、「Virtualize 9.9」は、API を使用する側のモノやアプリケーションの開発で必要となる結合テストにおいて、API やデータベースの挙動を模倣する仮想化ツールを提供し、実際の API やデータベースを必要としないテスト環境の構築を実現します。

「SOAtest 9.9」と「Virtualize 9.9」は、早い段階からのテストを実現し、品質確保と開発の効率化、工数削減を強力にサポートします。

### 【SOAtest 9.9 について】

「SOAtest」は、API(主に Web API や SOAP、MQ、JMS などの Web サービス)を提供する側の開発において、機能テスト、回帰テスト、パフォーマンステストおよび負荷テストを自動化し、API の品質確保と開発の効率化を両立させる「API 機能テスト自動化ツール」です。「SOAtest」には、REST や JSON、SOAP をはじめとしたテクノロジーやプロトコルに幅広く対応したテストドライバーが搭載されており、API のテスト自動化を強力にサポートします。テスト実行時には、自動で期待値とテスト結果の差異をレポートするため、既存のテスト資産を回帰テストに活用し、検証を自動化できます。また、機能テストや回帰テストで使用したテスト資産を使用し、非機能要件の検証に必要なパフォーマンステストや負荷テストに応用できます。「SOAtest」は、頻繁にバージョンアップする API のテストを効率的に、かつ効果的に実施するための環境を提供し、API のテスト自動化と品質確保を促進します。

### <SOAtest 9.9 の特長>

- ◆ API のテストに必要なテストドライバー、テストシナリオを自動生成
- ◆ デグレード防止に効果的な回帰テストを自動化
- ◆ データ駆動型のテストやシナリオテスト資産への拡張
- ◆ 機能テスト資産でパフォーマンステスト・負荷テストを実現
- ◆ API のバージョンアップに伴うテスト資産のメンテナンス作業を軽減
- ◆ JSON/XML のような階層構造を持つデータを柔軟に管理
- ◆ 開発チームでテストの準備、実行、管理が行える Environment Manager を搭載
- ◆ さまざまなテクノロジー／プロトコルをサポート

ここに記載された各ハードウェア及びソフトウェアは、それぞれのメーカーの商品名もしくは商標です。

## <<SOAtest 9.9 の特長>>

---

### ◆ API のテストに必要なテストドライバー、テストシナリオを自動生成

REST や JSON、SOAP など、さまざまなプロトコルで電文を送受信するテストドライバーが予め搭載されているため、すぐにテストを実施できます。また、RAML、Swagger、WADL、WSDL、XML スキーマなどの定義ファイルからテストドライバーを自動生成することや、業務における一連の操作を行った際に発生した HTTP(S)、MQ、JMS のトラフィックを使用し、テストシナリオを自動生成することも可能です。

### ◆ デグレード防止に効果的な回帰テストを自動化

テスト実行時には、自動で期待値とテスト結果の差異をレポートするため、既存のテスト資産を回帰テストに使用し自動化できます。これにより、テストのたびにデグレードの確認が行えます。

### ◆ データ駆動型のテストや複雑なシナリオテストの作成が可能

作成したテスト資産に、Excel シートや CSV ファイルなどからデータ(入力値と期待値)をインポートすることが可能なので、データ駆動型テストへ拡張できます。また、「テスト開始時にデータベースのデータを初期化する」ことや「更新処理を行う API のテストを実行した後にデータベースのデータを確認する」といったシナリオテストを作成することができます。この他にデータ変換やエビデンスとして使用するためのファイル出力などを可能にする 50 種類以上のツールが実装されているため、必要なテストに合わせた柔軟なシナリオテストを作成できます。

### ◆ 機能テストのテスト資産でパフォーマンステスト・負荷テストが可能

機能テストで使用したテスト資産を使用して、パフォーマンステストや負荷テストを実行できます。複数の仮想ユーザーで実行し、テスト対象のシステムに同時に多重のリクエストを送信することで高負荷状態にし、テストにかかった時間や各サーバーのパフォーマンスデータなどをリアルタイムにモニター、レポートします。API の応答時間やエラー率などに関する QoS(サービス品質)のしきい値を設定し、負荷テスト時にアプリケーションの性能が期待通りであるかどうかを検証できます。

### ◆ API のバージョンアップに伴うテスト資産のメンテナンス作業を軽減

新しく追加された変更アドバイザー機能は、API のバージョンアップが発生した場合、SOAtest で作成したテスト資産が使用する電文形式と最新の API の電文形式を比較し、差分をレポートします。差分を反映することにより、テスト資産を容易に更新し、メンテナンスに費やす負荷を軽減します。

### ◆ JSON/XML のような階層構造を持つデータを柔軟に管理

新しく追加されたデータリポジトリ機能は、JSON/XML のような階層構造を持つデータの管理を容易にします。これまでは、電文形式が同じであってもネストする(配列構造になる)要素の数が異なるリクエストデータの管理については、別々の Excel シートや CSV ファイルなどを必要としましたが、この階層構造を容易に表現し、一元管理します。これにより、既存のテスト資産を変更することなく、管理するデータを編集するだけで網羅性の高いテストを可能にするテスト資産へと即座に拡張できます。

### ◆ 開発チームでテストの準備、実行、管理が行える Environment Manager を搭載

新しく追加された Environment Manager は、Web ブラウザベースの UI からテスト資産の作成、編集、実行、および実行のスケジューリングを可能にするテストプラットフォームになります。これらの操作やテスト資産の管理は、開発者寄りのインターフェースであった従来の Eclipse ベースの

ここに記載された各ハードウェア及びソフトウェアは、それぞれのメーカーの商品名もしくは商標です。

SOAtest にアクセスすることなく実施可能であり、開発チームでのツールの使用を身近にだけでなく、複数の開発メンバーが平行してテスト資産の作成などを行うことを可能にします。

## ◆ さまざまなテクノロジー／プロトコルをサポート

REST や SOAP、JSON、WCF サービス、HTTP(S)、MQ、JMS といったさまざまなテクノロジーやプロトコルに対応し、API の機能テスト、回帰テスト、パフォーマンステスト、負荷テストを自動化します。本バージョンでは、以下のテクノロジーおよびプロトコルが追加されました。

- Protocol Buffers (protobuf)
- Copybook
- MQTT
- FIX
- SWIFT
- SFTP

---

## 【Virtualize 9.9 について】

「Virtualize」は、API を使用する側のモノやアプリケーションの開発で必要となる結合テストにおいて、API やデータベースの挙動を模倣する仮想化ツールを提供し、実際の API やデータベースを必要とすることなく早い段階からのテストを実現します。

機能間の連携を伴うテストは、REST、SOAP、MQ、JMS など公開する個々の API の開発が完成していることが前提となり、並行開発時には API 開発の進捗が結合テストを要する他チームのテスト進捗のボトルネックになります。また、複数チームや企業を跨る開発では、1つしかないテスト環境の利用待ちが発生したり、自由に他社システムと接続したテストができないなど、テストの実施にはさまざまな制約が付きまといまふ。

「Virtualize」は、結合テスト以降で必要となるこれらの API やデータベースを仮想化することで、必要な時にいつでもテストが実施できる仮想化資産(テストスタブ)の効率的な作成を可能にし、テスト進捗のスピードアップを実現します。さらに、従来のテストスタブでは実現できなかった網羅的なテストを開発の早い段階から実施することができるため、ソフトウェア品質の向上を可能にするだけでなく、テストスタブの開発におけるテスト工数の削減にも貢献します。

### <Virtualize 9.9 の特長>

- ◆ 仮想化資産(テストスタブ)の自動生成
- ◆ シナリオテストや CRUD 操作を伴うテストを仮想化
- ◆ API のバージョンアップに伴う仮想化資産のメンテナンス作業を軽減
- ◆ JSON/XML のような階層構造を持つデータを柔軟に管理
- ◆ 開発チームで仮想化資産の準備、デプロイ、管理が行える Environment Manager を搭載
- ◆ さまざまなテクノロジー／プロトコルをサポート

### <<Virtualize 9.9 の特長>>

---

#### ◆ 仮想化資産(テストスタブ)を自動生成

REST や JSON、SOAP など、さまざまなプロトコルで電文を送受信する仮想化資産(テストスタブ)が予め搭載されているため、すぐに仮想化プラットフォームでのテストを実施できます。また、

ここに記載された各ハードウェア及びソフトウェアは、それぞれのメーカーの商品名もしくは商標です。

RAML、Swagger、WADL、WSDL、XML スキーマなどの定義ファイルから仮想化資産(テストスタブ)を自動生成することや、業務における一連の操作を行った際に発生した HTTP(S)、MQ、JMS のトラフィックを使用し、テストシナリオの実施に必要な仮想化資産(テストスタブ)を自動生成することも可能です。

## ◆ シナリオテストや CRUD 操作を伴うテストを仮想化

仮想化資産(テストスタブ)に対して、リクエストとレスポンスの相関条件を柔軟に設定できるため、シナリオテストを仮想化できます。シナリオテスト時に、データの登録・参照・更新・削除を伴う操作に対する仮想化や、Excel シートや CSV ファイルなどで用意したデータを用いた仮想化、および任意の遅延時間で応答させることも可能です。

## ◆ API のバージョンアップに伴う仮想化資産のメンテナンス作業を軽減

新しく追加された変更アドバイザー機能は、API のバージョンアップが発生した場合、Virtualize で作成済みの仮想化資産が使用する電文形式と最新の API の電文形式を比較し、差分をレポートします。差分を反映することにより、仮想化資産を容易に更新し、メンテナンスに費やす負荷を軽減します。

## ◆ JSON/XML のような階層構造を持つデータを柔軟に管理

新しく追加されたデータリポジトリ機能は、JSON/XML のような階層構造を持つデータの管理を容易にします。これまでは、電文形式が同じであってもネストする(配列構造になる)要素の数が異なるレスポンスデータの管理については、別々の Excel シートや CSV ファイルなどを必要としましたが、この階層構造を容易に表現し、一元管理します。これにより、既存の仮想化資産を変更することなく、管理するデータを編集するだけで網羅性の高いテストを可能にする仮想化資産へと即座に拡張できます。

## ◆ 開発チームで仮想化資産の準備、デプロイ、管理が行える Environment Manager を搭載

新しく追加された Environment Manager は、Web ブラウザベースの UI から仮想化資産の作成、編集、デプロイを実施できます。以前のバージョンでは、これらの操作や仮想化資産の管理は、開発者寄りのインターフェースである Eclipse ベースの Virtualize で実施していましたが、Web ブラウザベースの Environment Manager で実施できるようになり、開発チームにおいてツールの使用を身近にし、さらには、複数の開発メンバーが仮想化資産を並行して作成することが可能になりました。また、Environment Manager では、システム関連図を定義することにより接続先のサブシステムを実システムから仮想化資産に切り替えたり、仮想化資産が処理したイベント(受信したリクエストや送信したレスポンスメッセージ)を監視したり、仮想化資産の利用頻度を確認したりでき、Virtualize にアクセスすることなく作業が行えます。

## ◆ さまざまなテクノロジー／プロトコルをサポート

REST や SOAP、JSON、WCF サービス、HTTP(S)、MQ、JMS といったさまざまなテクノロジーやプロトコルに対応した仮想化ツールを提供します。本バージョンでは、以下のテクノロジーおよびプロトコルが追加されました。

- Tibco Rendezvous
- Protocol Buffers (protobuf)
- Copybook
- MQTT
- Equifax
- FIX

ここに記載された各ハードウェア及びソフトウェアは、それぞれのメーカーの商品名もしくは商標です。

- SWIFT
- Rabbit MQ
- SFTP
- FTP
- SMTP

---

「SOAtest 9.9」ならび「Virtualize 9.9」のサポートプラットフォームは、Windows 2008、2012 Server、7、8.x、10、Linux (23bit/64bit)です。

2015年12月7日において、年間保守サービスを継続いただいているユーザーのみなさまには、「SOAtest 9.9」および「Virtualize 9.9」のそれぞれの製品において、「SOAtest 9.9 へのバージョンアップサービス」または、「Virtualize 9.9 へのバージョンアップサービス」を無償でご提供します。

=====

■テクマトリックス株式会社(東証一部：3762)について

テクマトリックス株式会社は、IT分野において、最先端の製品とソリューションを提供する総合的なソリューションプロバイダーです。ソフトウェア品質管理、ネットワーク、セキュリティ、ストレージなどの分野の製品を海外より輸入し、日本国内に提供するためのローカライゼーション、コンサルティング、技術サポート、教育などさまざまな付加価値を付けてご提供します。この中で、ソフトウェア品質保証サービス提供には17年の実績を持っています。

詳細は Web サイト：[www.techmatrix.co.jp/](http://www.techmatrix.co.jp/) をご参照ください。

■Parasoft Corporation について

Parasoft は、25 年以上にわたり、ソフトウェアのバグがアプリケーションに混入する原因と仕組みを研究し、数々のソリューションを提供してきました。Parasoft のソリューションは、ソフトウェア開発ライフサイクルにおける継続可能なプロセスとして、品質改善活動を支援し、頑強なソースコードの実装、無駄がなく機能性の高いシステムの構築、安定したビジネスプロセスの実現を可能とします。数々の賞を受賞した Parasoft 製品は、長年の研究成果と経験から得られたノウハウを自動化し、エンタープライズシステムから組み込みソフトウェアまで、どのようなタイプのソフトウェア開発においても、生産性向上と品質改善を実現します。Parasoft のコンサルティングサービスは、ツールでは解決できない問題の解決や開発プロセスの改善など、Parasoft の 25 年以上の経験を直接お客様に提供し、お客様の改善活動を支援します。

詳細は Web サイト：[www.parasoft.com/](http://www.parasoft.com/) をご参照ください。

【この発表に関するお問い合わせ先】

テクマトリックス株式会社

システムエンジニアリング事業部 ソフトウェアエンジニアリング営業部

TEL 03-4405-7853 FAX 03-6436-3553

E-MAIL: [parasoft-info@techmatrix.co.jp](mailto:parasoft-info@techmatrix.co.jp)

SOAtest URL: [www.techmatrix.co.jp/quality/soatest/](http://www.techmatrix.co.jp/quality/soatest/)

Virtualize URL: [www.techmatrix.co.jp/quality/virtualize/](http://www.techmatrix.co.jp/quality/virtualize/)